

学生確保の見通し等を記載した書類

1 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

(1) 学生の確保の見通し

① 定員充足の見込み

横浜創英大学（以下、本学という）は平成 24 年 4 月に開学しており、平成 28 年 3 月に看護学部看護学科の第 1 期生となる 99 名の卒業生を送り出す予定となっている。卒業予定者の一部が大学院に進学してより深く看護学を修めたいと要望しており、また、本学の実習依頼先病院の現職看護職責任者等からもリカレント教育の機会提供について強い要望が寄せられている。

今回、本学が平成 28 年 4 月に大学院看護学研究科看護学専攻修士課程（以下、本研究科という）の設置を計画するにあたり、それらの要望の実態を確認するため、1) 本学看護学部看護学科に在籍する 1～3 年生、2) 本学の実習依頼先など 13 の医療施設の現職看護職を対象としたアンケート調査を実施した（調査結果は別紙 1「横浜創英大学大学院修士課程設置に関するアンケート調査報告書」を参照）。

この結果、1) 在学生（アンケート回答者数 272 名）については、開設年度に入学が可能となる 3 年生 3 名を含む 8 名が「あなたは本学に大学院修士課程が設置できたら入学しますか。」との質問に対し、「卒業後すぐに入学して学びたい」と回答しているほか、23 名が「何年か仕事をしてから入学したい」と回答している。また、2) 現職看護職（アンケート回答者数 1,534 名）は、「横浜創英大学に大学院看護学研究科修士課程ができれば進学を希望されますか。」との質問に対し、25 名が「希望する」と回答しており、このうちの何名かは開設年度に入学することも期待でき、「将来的に希望する」と回答した 48 名と合わせ、開設年度以降順次入学することが期待される。こうした結果を踏まえ、本研究科は開設年度より入学定員 6 名以上の入学希望者は確保することが可能であると判断できる。

また、本学の近隣に位置する実習依頼先病院 12 施設の病院長・看護部長等に、本学学長・看護学部長等がインタビュー調査を実施した結果（インタビュー調査のまとめは別紙 2 を参照）を見ても、多くの病院長・看護部長等は院内の看護職に大学院進学を「薦めたい」としており、さらにこのうち半数は「積極的に薦めたい」と回答している。なかには学費負担面や勤務面での優遇策を用意し進学を後押しする病院もみられる。本研究科への進学については、地理的に近い 2 病院が積極的な推薦姿勢を示したほか、半数程度の病院が推薦可能である旨表明している。

このアンケート調査やインタビュー調査の結果から、本研究科の設置は、学部の卒

業予定者のニーズや近隣病院の現職看護職のリカレント教育に対するニーズに合致しており、本研究科への入学について、在学生及び現職看護職からの前向きな回答や実習依頼先病院病院長・看護部長等からの積極的な推薦姿勢も示されている。

入学定員の決定に当たっては、最近設置された近隣看護系大学院の入学定員の学部定員との比率（資料 1）は 7.7～16.7%となっているが、本研究科はその比率をやや抑制して、充実した教育研究指導を保証できる規模とするという視点などから、入学定員を 6 名とした。

地域における人材需要についてみると、神奈川県内の看護職員数（人口 10 万人あたり）は全国都道府県で最下位からは脱したもの依然 2 番目という低位であり、看護職不足は継続している状況にある（資料 2）。

アンケートやインタビュー調査の結果及び地域における人材需要の動向などから、本研究科開設においても本学卒業生や実習依頼先病院に働く現職看護職の入学希望者の確保の可能性は十分にあり、学生確保については問題ない。

② 定員充足の根拠となる調査結果の概要

（ア）アンケート調査結果

①に記載した今回実施したアンケート調査について、本学が集計・分析を依頼した民間調査機関である一般財団法人日本開発構想研究所が取り纏めた結果の中から「横浜創英大学大学院看護学研究科修士課程における学生確保の見通しについて」を抜粋すると以下のとおりである（別紙 1「横浜創英大学大学院修士課程設置に関するアンケート調査報告書」10～11 ページ）。

横浜創英大学大学院看護学研究科修士課程における学生確保の見通しについて

横浜創英大学に大学院看護学研究科修士課程を設置した場合に進学したい意向を示した回答者について、社会人及び在学生の回答結果を整理すると、次の表の通りである。

横浜創英大学大学院修士課程への進学意向

	希望する	将来的に希望する	卒業後すぐに入学して学びたい	何年か仕事をしてから入学したい
社会人（看護師）	25 (1.6%)	48 (3.1%)	—	—
在学生（合計）	—	—	8 (2.9%)	23 (8.5%)
1 学年	—	—	3 (3.3%)	8 (8.7%)
2 学年	—	—	2 (2.3%)	5 (5.7%)
3 学年	—	—	3 (3.2%)	10 (10.8%)

数字は回答者数、（ ）内は回答割合

横浜創英大学大学院看護学研究科修士課程の入学定員は 6 人を予定している。今回のアンケ

ート調査では、25 人の現職の看護師が進学したい意向を示していることから、今回のアンケート調査に限ってみても入学定員（6 人）を超える進学希望者の存在が確認できる。

在學生においても、大学卒業後ストレートで大学院に進学したい意向を示しているのが 8 人、大学卒業後実務経験を経てから大学院に進学したい意向を示しているのが 23 人おり、看護師と合わせて、現段階で 30 人程度の進学希望者がいると言えよう。

また、48 人の現職の看護師は将来的に進学したいと回答している。実務経験後に大学院進学を希望している在學生とともに、将来の大学院進学者として期待できることから、中長期的に見ても学生を確保出来る可能性は高いと考えられる。

さらに、社会人の最終学歴別に進学意向をまとめたものが次の表である。進学を希望しているのは専門学校卒が 19 人、大学卒が 4 人であるが、横浜創英短期大学看護学科の卒業生（16 人）については、4 人が「将来的に希望する」を回答している。回答者 16 人のうち実に 25% が将来の大学院進学を希望していることから、横浜創英短期大学卒業生については横浜創英大学大学院看護学研究科への関心がより高いと考えられる。

社会人（看護師）の最終学歴別に見た横浜創英大学大学院看護学研究科への進学意向

	① 希望する	② 将来的に希望する	③ 今は分からない	④ 希望しない	不明	合計
高等学校	0 (0.0%)	2 (3.7%)	24 (44.4%)	21 (38.9%)	7 (13.0%)	54 (100.0%)
専門学校	19 (2.0%)	27 (2.8%)	446 (46.1%)	398 (41.2%)	77 (8.0%)	967 (100.0%)
短期大学（創英短大を除く）	1 (0.5%)	7 (3.4%)	100 (49.0%)	84 (41.2%)	12 (5.9%)	204 (100.0%)
横浜創英短期大学	0 (0.0%)	4 (25.0%)	5 (31.3%)	4 (25.0%)	3 (18.8%)	16 (100.0%)
大 学	4 (1.8%)	8 (3.5%)	103 (45.4%)	94 (41.4%)	18 (7.9%)	227 (100.0%)
大学院（修士課程）	0 (0.0%)	0 (0.0%)	6 (22.2%)	20 (74.1%)	1 (3.7%)	27 (100.0%)
大学院（博士課程）	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (100.0%)	0 (0.0%)	1 (100.0%)
不 明	1 (2.6%)	0 (0.0%)	7 (18.4%)	4 (10.5%)	26 (68.4%)	38 (100.0%)
合 計	25 (1.6%)	48 (3.1%)	691 (45.0%)	626 (40.8%)	144 (9.4%)	1,534 (100.0%)

上段は回答者数、下段は回答割合

一般論として、社会人の大学院進学意向を見ると、「ぜひ進学したい」（32 人、2.1%）、「できれば進学したい」（59 人、3.8%）、「条件が整えば進学したい」（175 人、11.4%）、「将来の選択肢の一つとして考えたい」（227 人、14.8%）といった大学院進学に関心がある回答は、

合計すると社会人回答者の 32.1%を占めることになる。

経済的条件や勤務先との関係などもあり、関心はあっても大学院に進学するとは限らないが、潜在的なマーケットという意味では大学院進学ニーズは相当数あると期待できる。中長期的な取組として、横浜創英大学における大学院の学習環境の整備や修士課程修了生の輩出実績を積むことにより、大学院としての魅力を高め、大学院進学に関心がある看護師の潜在的ニーズを掘り起こし、進学希望者の獲得につなげていくことが望まれる。

(イ) 神奈川県の人人口動態調査、県内大学院の入学定員充足率など

神奈川県の人口の増加傾向は続いており、加えて老人人口比率は平成 7 年には 11.0%であったものが、平成 22 年には 20.1%まで上昇し高齢化が進んでいることなどから（資料 3）、神奈川県における保健医療福祉のニーズは量的にますます高まることが予測され、県内では看護職不足が継続するものと見られている（資料 2）。そして、看護職養成のために大学や専門学校が増設されており（資料 4）、看護職養成の教育者が不足している状況にあるといえる。このような状況に対応するため、質の高い教育・研究者を養成することが求められている。

また、既にある神奈川県内の看護系研究科を有する全ての私立大学大学院研究科（5 校）の入学定員充足率平均値を過去 3 年間にわたって見るといずれの年度も 100%を超えており（資料 5）、地域の大学院研究科に対するニーズは強いものがあると判断される。

神奈川県は、平成 24 年 5 月に策定した「医療のグランドデザイン」（資料 6）のなかで、看護師等医療人材の養成・確保に関する方向性として、「医療の高度化等に対応し、県民に対し安心で安全な医療を提供するため、質の高い医療人材の養成、仕事と家庭等を両立し継続して就業可能な勤務環境づくり、専門能力の強化機会の確保などに取り組みます。」と述べている。14 条特例及び長期履修制度を導入し設置する本研究科は、就業中の看護職や医療現場を離れて家庭に入っている潜在看護職員などの入学も想定しており、神奈川県のニーズに合致したもののといえる。

③ 学生納付金の設定の考え方

本学は看護学部看護学科の卒業予定者のほか、実践現場で仕事をする看護職に問題解決の場を提供し、看護の質の向上と学びの方向性を示し、将来に向けて、地域社会に貢献していくため、広く門戸を開いた大学院とすべく、学生納付金の設定については、教育の質を維持しつつも経済的な負担が大きくなるよう配慮し神奈川県内の看護系研究科を有する全ての大学院研究科の学生納付金も参考に、初年度 96 万円、2 年間計 182 万円とした。

神奈川県内の看護系研究科を有する全ての私立大学大学院研究科（5 校）の平成 27

年度の学生納付金額の平均は下表のとおりであり、本学の学生納付金は県内平均額を下回り入学者にとって比較的負担にならない水準としてある。

なお、現職看護職等社会人入学者のため、長期履修制度を導入し、2年間の学費で3年間在籍できることとしており、社会人の就学を経済的に支援する方針である。

(表 1) 学生納付金の内訳等

(単位：千円)

	入学金	授業料	施設 整備費等	2 年間		
				初年度計	2 年度計	合計
本大学院	100	720	140	960	860	1,820
県内 5 校平均(注)	260	763	318	1,341	1,081	2,422

(注) 各校の計数は資料 7

出典：一般財団法人 日本開発構想研究所

(2) 学生確保に向けた具体的な取組状況

本研究科の設置については、今回のアンケート調査時にアンケート対象者に資料として配付した「横浜創英大学看護学研究科看護学専攻（仮称）修士課程設置計画概要」（資料 8）により約 4,000 名の在学生及び現職看護職に情報提供しており、また、実習依頼先病院の病院長・看護部長等にも訪問のうえ詳細に本研究科の概要を伝え、病院看護職のキャリアパスでの活用などについて要請している。

今回実施したアンケート調査の結果をみると、現職看護職への「大学院進学を考えた際に問題になり得ること」との質問に対し、最も多い 7 割強が回答したのは「学費など経済面」についてであり、上記（1）③にみられるように本研究科の学納金は、県内の私立大学大学院看護系研究科の平均値に比べ低く設定した。次いで、「学費など経済面」に近い 7 割弱が回答した「仕事との両立」については、科目等履修生制度も含め、他大学院での既修得単位を本研究科修了の単位として認定することを検討しており、入学しやすい環境を整える方針である。また、「進学しやすい横浜創英大学の学習環境」との質問に対し、「長期履修制度」、「土・日・祝日の開講」、「夜間の開講」をそれぞれ 4 割があげているが、本研究科はこれらの要望に全て対応する態勢を整えている。

今後、①リーフレットの作成・配付、②ホームページなども活用した広報活動、③オープンキャンパスの実施などにより、入学者の確保に努めていく方針である。具体的には、①本研究科の設置の趣旨や養成する人材像のほか、上記の学納金・長期履修制度・土日夜間開講などについて記載したリーフレットを作成し、学部の卒業予定者のほか、近隣病院の病院長等の協力も得たうえで現職看護職などに配付する。②平成 27 年 4 月以降、本学ホームページに本研究科の概要などとともに募集要項（認可前は「認可申請中」と明記）を掲載する。③平成 27 年度に本学は 10 回のオープンキャンパス、3 回の相談会を予定しており、その中で本研究科についても説明会や個別相談を実施する。

2 人材需要の動向等社会の要請

(1) 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

本研究科は、あらゆる看護の場において専門職業人として高い倫理観を持ち、専門的知識・理論を基盤とした実践の科学としての看護を提供するために、自ら看護・教育・研究ができる看護実践者及び看護管理者を育成すること、加えて、看護学・看護管理学の充実・発展に向けた研究を推進できる看護教育者を育成することにより地域社会の保健医療福祉に貢献することとする。

本研究科は、その教育目的に基づき、①質の高い看護ケアを提供できる看護実践者、②組織的に看護機能を発揮させることのできる看護管理者、③看護の場でスタッフの教育や研究の指導を担うことができる看護教育者を育成する。

このため、①看護実践の場で科学的根拠に基づき的確な判断と意思決定ができる看護実践能力、②看護実践の場で人々の健康問題の解決に向けて専門的役割を発揮し、教育的関わりや指導ができる教育能力、③看護実践の場において現象を科学的に探求し、確かな研究方法にもとづいて創造的に新たな看護実践を開発する研究能力、④医療・看護の受け手である人々、協働する看護職や他の医療専門職及び多職種の人々に対して満足を作り出せる看護管理能力を身につけることを教育目標とする。

(2) 上記(1)が社会的、地域的な人材需要の動向を踏まえたものであることの客観的な根拠

本研究科修了者に対する社会的、地域的な人材需要を把握するため、実習依頼先病院12施設の病院長・看護部長等に、本学学長・看護学部長等がインタビュー調査を実施した（インタビュー調査のまとめは別紙2を参照）。

その結果、大学院修了者の採用については積極的な姿勢を示す病院は半数程度であるが、現時点で採用を想定していないとする2病院でも経験を積んだ看護職を大学院に入学させ管理職として育てる考えであり、院内の現職にある看護職を学費面や勤務面の優遇策を講じ後押しして大学院に進学させ、病院全体の看護職のレベルアップに活用しようと考えている。各病院長・看護部長等の多くは、大学院修了者に看護現場での実践力や研究心を求めると同時に人材育成のための教育力・リーダーシップを求めており、本大学院が養成を目指す人材像である①質の高い看護ケアを提供できる看護実践者、②組織的に看護機能を発揮させることのできる看護管理者、③看護の場でスタッフの教育や研究の指導を担うことができる看護教育者と合致するものであり、本大学院開設に対するニーズは高いことが確認できた。

また、関東地方での看護系教員に対する求人動向（資料9）を見ると、80名程度の求人公募情報がホームページ上で掲載されており、大学等の看護職養成に係る教育者・研究者の需要も高いことが確認された。

資料目次

(資料1) 最近5年間に設置された神奈川県及び東京都の看護系大学院の入学
定員数等

(資料2) 神奈川県就業看護職員数等の統計(抜粋)

(資料3) 神奈川県人口及び老人人口の推移

(資料4) 神奈川県内看護師等養成施設一覧表

(資料5) 神奈川県内の看護系大学院研究科(博士前期課程・修士課程)充足
状況等について

(資料6) 神奈川県 医療のグランドデザイン(抜粋)

(資料7) 神奈川県内の看護系大学院研究科(博士前期課程・修士課程)5校の
学生納付金

(資料8) 横浜創英大学大学院看護学研究科看護学専攻(仮称)修士課程設置
計画概要

(資料9) 看護系教職員募集一覧

(別紙1) 横浜創英大学大学院修士課程設置に関するアンケート調査報告書

(別紙2) 病院長・看護部長等へのインタビュー調査

(資料 1)

最近 5 年間に設置された神奈川県及び東京都の看護系大学院の入学定員数等

大学院名	国公 私別	設置 年度	研究科名	入学定員数(A) (修士または博士 前期課程) 人	学部定員 (B) 人	学部定員に対する 大学院入学定員の 比率 (A/B) %
上智大学大学院	私立	平成 23 年	総合人間科学研究科 看護学専攻	9	70	12.9
帝京大学大学院	私立	平成 21 年	医療技術学研究科 看護学専攻	10	130	7.7
東京慈恵会医科 大学大学院	私立	平成 21 年	医学研究科 看護学専攻	10	60	16.7
武蔵野大学大学院	私立	平成 22 年	看護学研究科 看護学専攻	10	120	8.3
横浜市立大学 大学院	公立	平成 21 年	医学研究科 看護学専攻	12	100	12.0
横浜創英大学 大学院	私立		看護学研究科 看護学専攻	6	80	7.5

(参考) 神奈川県内の他の看護系大学院の入学定員数等

大学院名	国公 私別	設置 年度	研究科名	入学定員数(A) (修士または博士 前期課程) 人	学 部 定 員 (B) 人	学部定員に対する 大学院入学定員の 比率 (A/B) %
昭和大学大学院	私立	平成 14 年	保健医療研究科 看護学専攻	10	95	10.5
北里大学大学院	私立	平成 2 年	看護学研究科	15	100	15.0
東海大学大学院	私立	平成 11 年	健康科学研究科 看護学専攻	10	75	13.3

(資料2)

神奈川県就業看護職員数等の統計（平成24年12月末現在）（抜粋）

1 就業看護職員数の概要（実人員）

就業看護職員数（保健師・助産師・看護師・准看護師）は71,594人で前回調査（平成22年末現在）に比べ、4,918人増加しました。増加率は7.4%で、全国で第2位となっています。

このうち、看護師は56,674人で前回調査に比べ、5,171人（10.0%）増加し、准看護師は10,864人で471人（4.2%）減少しました。

また、人口10万人あたりの就業看護職員数をみると、前回調査では約736.8人で全国で最も少ない結果でしたが、今回は約789.7人で全国で2番目に少ない結果でした。

就業看護職員数（保健師・助産師・看護師・准看護師）					
	保健師	助産師	看護師	准看護師	合 計
H22.12 月末現在	1,899 (1,737.6)	1,939 (1,668.9)	51,503 (46,105.5)	11,335 (9,461.6)	66,676 (58,973.6)
H24.12 月末現在	1,965 (1,780.3)	2,091 (1,823.2)	56,674 (50,408.1)	10,864 (8,961.6)	71,594 (62,973.2)
増 減	66 (42.7)	152 (154.3)	5,171 (4,302.6)	-471 (-500.0)	4,918 (3,999.6)
増加率	3.5%	7.8%	10.0%	-4.1%	7.4%
上段：実人員 / 下段()内：常勤換算					

〈参考〉前回調査からの就業看護職員増加率

全国平均	1 位	2 位	3 位
	岐阜県	神奈川県	大分県
4.1%	9.6%	7.4%	6.3%

〈参考〉人口 10 万人あたり就業看護職員数

全国平均	45 位	46 位	47 位
	千葉県	神奈川県	埼玉県
1,139.3 人	799.9 人	789.7 人	776.2 人

2 第七次看護職員需給見通し及びかながわグランドデザイン目標値との比較（常勤換算）

平成 22 年 12 月に策定した第七次看護職員需給見通し※（平成 23 年から平成 27 年）との比較では、平成 24 年 12 月末の供給見通しを 501.2 人上回っています。

また、かながわグランドデザインの同時期の目標値を 573.2 人上回っています。

		平成 23 年	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年
第七次看護職員需給見通し	需要見通し (A)	82,585 (73,160)	84,860 (75,144)	87,117 (77,119)	89,401 (79,110)	91,704 (81,118)
	供給見通し (B)	66,670 (59,110)	70,461 (62,472)	75,461 (66,905)	81,731 (72,464)	89,486 (79,340)
かながわグランドデザイン	目標値 (常勤換算)	—	(62,400)	—	(72,400)	—
今回の集計結果		—	71,594 (62,973.2)	—	—	—

需給バランス・常勤（B－A） （▲14,050） （▲12,672） （▲10,214） （▲6,646） （▲1,778）

※ 看護職員需給見通し

看護職員需給見通しは、看護職員確保の基礎資料として、おおむね 5 年毎に国が策定方針を示し、その方針に基づき都道府県が策定したもの。

需給バランスは本学が加筆

出所：神奈川県ホームページより作成

(資料3)

神奈川県の人ロ及び老人人ロの推移

	平成7年	平成12年		平成17年		平成22年	
			前回比(%)		前回比(%)		前回比(%)
総人ロ(a) (人)	8,245,900	8,489,932	3.0	8,791,597	3.6	9,048,331	2.9
老人人ロ(b) (人)	908,467	1,117,742	23.0	1,480,262	32.4	1,819,503	22.9
老人人ロ比率 (b/a) (%)	11.0	13.2	2.2	16.8	3.6	20.1	3.3

出典:平成23年度版神奈川県福祉統計

神奈川県内看護師等養成施設一覧表(H26年11月現在)

区分			名称	学部・学科	就業年限	開設年度		
保健師 助産師 看護師	神奈川県立保健福祉大学(横須賀市)			保健福祉学部看護学科	4	H15		
	北里大学(相模原市)			看護学部	4	S61		
	慶応義塾大学(藤沢市)			看護医療学部	4	H13		
保健師 助産師	横浜市立大学			医学部看護学科	4	H17		
	東海大学(伊勢原市)			健康科学部看護学科	4	H7		
	国際医療福祉大学(小田原市)			小田原保健医療学部看護学科	4	H18		
	昭和大学(横浜市)			保健医療学部看護学科	4	H14		
	横浜創英大学			看護学部看護学科	4	H24		
	関東学院大学(横浜市)			看護学部看護学科	4	H25		
助産師	神奈川県立衛生看護専門学校(横浜市)			助産師学科(男子不可)	1	H18		
	昭和大学(横浜市)			助産学専攻科(男子不可)	1	不明		
看護師 課程	短大 4校	川崎市立看護短期大学		看護学科	3	H7		
		東海大学医療技術短期大学(平塚市)		看護学科	3	S49		
		横浜創英短期大学(H24年度から募集中止)		看護学科	3	H19		
		神奈川歯科大学短期大学部(横須賀市)		看護学科	3	H25		
	専門学校	3年 課程	独立行政法人国立病院機構横浜医療センター附属横浜看護学校		第一看護学科	3	H19	
			神奈川県立平塚看護専門学校			3	S54	
			神奈川県立よこはま看護専門学校			3	H15	
			神奈川県立衛生看護専門学校(横浜市)			3	H18	
			藤沢市立看護専門学校			3	S59	
			横須賀市立看護専門学校			3	H16	
			聖マリアンナ医科大学看護専門学校(川崎市)			3	S54	
			厚木看護専門学校		看護第一学科	3	S57	
			横浜市医師会保土谷看護専門学校		第一看護学科	3	S60	
			小澤高等看護学院(男子不可)(小田原市)		看護第一学科 第一看護学科	3	S63	
			積善会看護専門学校(小田原市)			3	H元	
			小田原高等看護専門学校			3	H6	
			湘南平塚看護専門学校			3	H6	
			茅ヶ崎看護専門学校			3	H22	
			独立行政法人労働者健康福祉機構横浜労災看護専門学校			看護学科	3	H7
			横浜市病院協会看護専門学校			3	H7	
			独立行政法人地域医療機能推進機構 横浜中央病院付属看護専門学校				3	H26
			相模原看護専門学校			看護学科	3	H23
			イムス横浜国際看護専門学校			看護学科	3	H22
			湘南看護専門学校(藤沢市)		看護学科	3	H25	
			横浜未来看護専門学校			3	H25	
			横浜市医師会看護専門学校			3	H26	
			神奈川衛生学園専門学校(横須賀市)		看護学科	3	H26	
			横浜中央看護専門学校		看護学科	3	H26	
			横浜実践看護専門学校		看護学科	3	H26	
			横浜市医師会保土谷看護専門学校		第二看護学科	4	S60	
	2年 課程		神奈川県立衛生看護専門学校		第二看護学科	2	H18	
			高津看護専門学校			2	S54	
			川崎看護専門学校			2	H7	
			小田原看護専門学校(H27年度から募集中止)		看護学科	3	S55	
			横浜市医師会看護専門学校(H26年度から募集中止)		看護学科	3	不明	
			厚木看護専門学校		第二看護学科	3	S47	
准看護師	神奈川県立衛生看護専門学校				2	H18		
	川崎市医師会附属准看護学校				2	S32		
	小田原看護専門学校				2	S55		
	相模原准看護学院				2	S33		
	自衛隊横須賀病院准看護学院				2	不明		

を付した施設は直近平成25,26年に設置された施設

開設年度は、本学が各校のHP等から作成。直近の変更年度を記載。

(資料5)

神奈川県内の看護系大学院研究科（博士前期課程・修士課程）の充足状況等について（平成26年9月現在）

大学院名		所在地	入学 定員 人	入学者数 人			入学定員充足率 %			収容 定員 人	在籍 者数 人	収容定員 充足率 %	備考
				平成 24年	平成 25	平成 26	平成 24	平成 25	平成 26				
昭和大学大学院	保健医療学研究科 保健医療学専攻	横浜市 緑区	10	14	17	14	140.0	170.0	140.0	20	46	230.0	
北里大学大学院	看護学研究科 看護学専攻	相模原市	15	11	11	9	73.3	73.3	60.0	30	23	76.7	
慶應義塾大学大学院	健康マネジメント研究科 看護学専修	藤沢市	40	31	29	48	77.5	72.5	120.0	80	79	98.8	他の2専修も含めた計 数
東海大学大学院	健康科学研究科 看護学専攻	伊勢原市	10	—	—	10	—	—	100.0	20	21	105.0	不明の数値は一で表示
国際医療福祉大学 大学院	医療福祉学研究科 保健医療学専攻	小田原市	100	125	113	130	125.0	113.0	130.0	200	250	125.0	大田原, 東京, 福岡キャンパス等を含めた計 数
			充足率平均値				104.0	107.2	110.0			127.1	充足率平均値は不明の 大学院を除いた計数

出典：各校のホームページより、一般財団法人「日本開発構想研究所」が作成

神奈川県
医療のグランドデザイン (抜粋)

平成24年 5 月

神奈川県

はじめに

わが国では、1961（昭和36）年に国民皆保険体制が確立し、国民の医療・福祉や、衛生環境が向上したことは間違いありません。

しかし、地域医療の状況は刻々と変化しています。本県と他の地域を比べてみても、また県内であっても、それぞれの地域によって医療体制の事情は異なります。

また、本県の医療の現状は、必ずしも楽観できるものではありません。近年、救急医療や周産期医療などの面で、受入医療機関や医療を支える人材不足、勤務環境の悪化などによって、地域医療に支障が生じています。また、全国をはるかに上回る速さで高齢化が進行していくため、高齢者の医療の需要が高まるとともに、今後の医療人材の不足が危惧されています。

私は、県民が生きている喜びを実感し、生まれてよかった、長生きしてよかったと思え、人やものをひきつけるマグネット力を持ち、住んでみたい、何度も訪れてみたいと思う魅力あふれる「いのち輝くマグネット神奈川」の実現を目指しております。

それを具体化するための本県の医療施策の基本理念として「神奈川県医療のグランドデザイン」を策定いたしました。この「神奈川県医療のグランドデザイン」は、今後10年先を見据えて本県の医療の現状を県民・患者の立場からも見直し、本県医療のあるべき姿、現在の課題解決の方向性を示すものであります。

策定に先立ちましては、平成23年8月に「医療のグランドデザイン策定プロジェクトチーム」（委員長：大道久日本大学医学部客員教授）を設置してご検討いただき、平成24年3月に最終報告書をご提出いただきました。今回の策定は、最終報告書の内容を受け、神奈川県として取りまとめたものです。

策定に当たりまして、ご尽力いただきました関係者各位に改めてお礼申し上げますとともに、貴重なご意見をいただきました多くの県民の皆様に深く感謝いたします。

平成24年5月

神奈川県知事 黒岩祐治

目 次

1	策定に当たって	
(1)	策定の趣旨	1
(2)	医療のグランドデザインとは	2
ア	性格	2
イ	役割	2
(3)	検討の視点	2
2	神奈川県が目指すべき医療の姿	3
(1)	根本理念	3
(2)	目指すべき医療の姿	3
視点1	地域に根ざした医療	3
視点2	開かれた医療と透明性の確保	4
視点3	病気にならない取組みの推進	4
3	目指すべき姿の実現に向けて推進する取組み	
(1)	地域に根ざした医療	
ア	効率的で切れ目のない安全な医療提供体制の構築	
(ア)	救急医療の充実	5
(イ)	医療資源の適正配置・地域偏在是正	9
(ウ)	医療と介護の連携・在宅医療の推進	13
(エ)	災害時医療体制の整備	17
イ	連携・協働・自律の医療の推進	
(ア)	医師の養成・確保	20
(イ)	看護師等医療人材の養成・確保	24
(ウ)	職種間連携、職域拡大、チーム医療推進	26
(エ)	県民の医療に対する理解と参画の促進	28
(2)	開かれた医療と透明性の確保	
ア	ICTを活用した医療情報の医療提供施設・患者間の 共有とセルフケアの推進	30
イ	西洋医学と東洋医学の連携などによる 治療の選択肢の多様化	33
(3)	病気にならない取組みの推進	
ア	未病を治す取組み	35
イ	予防接種の促進	36
ウ	がんなどの予防を目指したたばこ対策の推進	37

(資料)

・ 神奈川県医療の現状	・ ・ ・ ・ ・	41
・ 用語集	・ ・ ・ ・ ・	46

※ 本文中の語句の右肩に数字を付したものは、巻末の用語集に記載。
(例：周産期¹⁾)

(イ) 看護師等医療人材の養成・確保

① 背景・現状

県内で就業している看護職員については不足状況にあります。人口10万人当たり就業看護職員数が736.8人(平成22年)と全国ワースト1となっています。増加率(平成20～平成22年)は9.9%と全国で最も高いですが、病院に勤務する看護職員の離職率は13.0%(平成22年)と全国平均(11.0%)より高い状況です(業務従事者届、日本看護協会調査)。

離職の理由としては、新人看護職員の場合は、看護学校で学んだことと臨床で求められる能力とのギャップによるリアリティショックが主な理由とされ、経験をつんだ看護職員の場合、交代制や夜勤の厳しさ及び子育て等が主な理由とされています。

また、薬剤師の病棟の配置は医療事故の減少につながり医療安全面にも有効であるとともに、他の医療従事者の負担軽減にもつながります。

このほか、高齢化の進展に伴いリハビリテーションが多く実施されていることから、病院で働くリハビリ関連職種の従事者数が増えてきています。

② 課題

医療の高度化等に対応し、県民に対し安心して安全な医療を提供できる医療人材の養成や、様々なライフステージで働き続けられる勤務環境の整備が求められており、医師や看護職員をはじめとする医療従事者の再就業の支援を進める取組が必要です。

看護職員については、養成段階でさらに高い実践能力を身につけることが求められていることから、准看護師養成を含めた看護教育のあり方について検討が必要です。また、医療現場を離れた潜在看護職員²⁶⁾の所在把握が困難なため十分活用できていないことなどが課題となっています。

③ 方向性・取組み

(医療人材確保の方向性)

医療の高度化等に対応し、県民に対し安心して安全な医療を提供するため、質の高い医療人材の養成、仕事と家庭等を両立し継続して就業可能な勤務環境づくり、専門能力の強化機会の確保などに取り組めます。

(看護職員の確保への取組み)

看護職員については、実践力が高く自律的に活動できる看護人材の養成に取り組めます。取組みに当たっては、看護師、准看護師、保健

師、助産師など看護教育のあり方について検討会を設置し、検討を進めていきます。新人看護職員の早期離職を防止するため、養成施設と臨床現場の連携による実践力向上への取組みに対する支援や、県内の病院に就業する新人看護職員が必ず研修を受けられるような環境づくりなどに取り組めます。

(薬剤師の確保への取組み)

薬剤師については、病棟への配置の促進と、既卒者への教育研修による職能向上に取り組めます。

(資料7)

神奈川県内の看護系大学院研究科(博士前期課程・修士課程)5校の学生納付金

(単位:円)

大学院名		所在地	入学金	授業料	施設 整備費等	2年間		
						初年度計	2年度計	合計
昭和大学大学院	保健医療学研究科 保健医療学専攻	横浜市 緑区	100,000	400,000	200,000	700,000	600,000	1,300,000
北里大学大学院	看護学研究科 看護学専攻	相模原 市	400,000	850,000	300,000	1,550,000	1,150,000	2,700,000
慶應義塾大学大学院	健康マネジメント研究科 看護学専修	藤沢市	200,000	1,030,000	480,000	1,710,000	1,510,000	3,220,000
東海大学大学院	健康科学研究科 看護学専攻	伊勢原 市	300,000	735,000	411,000	1,446,000	1,146,000	2,592,000
国際医療福祉大学 大学院	医療福祉学研究科 保健医療学専攻	小田原 市	300,000	800,000	200,000	1,300,000	1,000,000	2,300,000
5校平均			260,000	763,000	318,200	1,341,200	1,081,200	2,422,400

出典：各校のホームページより、一般財団法人「日本開発構想研究所」が作成

横浜創英大学大学院看護学研究科看護学専攻（仮称） 修士課程設置計画概要

1. 趣旨

建学の精神である「考えて行動のできる人」に基づき、幅広い視野と高い倫理観に立ち、人間の尊厳を重視した保健・看護実践科学における教育・研究を推進するため、また学士課程の完成後の次の発展を期するため、看護学研究科修士課程を設置する。

2. 養成する人材像

- ① 質の高い看護ケアを提供できる看護実践者：科学的思考に基づく研究力、倫理的判断に基づく行動力を有する看護実践のリーダー、臨床における教育者・研究者
- ② 組織的に看護機能を発揮させることのできる看護管理者：統合的、創造的に組織を発展させることができる管理者、大学その他の教育機関の教育者・研究者

3. 研究科名・専攻名 学位名 入学定員

看護学研究科・看護学専攻 修士（看護学） 入学定員：6名

4. 設置場所

現在の横浜創英大学キャンパス内（横浜市緑区三保町1番地）※

5. 開設年度

平成28年度（予定）

6. 学費

初年度納付金：96万円（予定）

[参考]平成27年度神奈川県内私立看護系大学院研究科初年度納付金平均額：約134万円

7. その他

地域社会からの要請に応え、社会人学生(注)の受け入れも積極的に行うため、平日夜間及び週末に授業を開講するとともに、標準修業年限（2年）より長い期間で履修し修了できる長期履修制度を導入します（学費は標準修業年限で修了する場合と同じです）。

(注)学校教育法第83条に定める大学を卒業した方でなくても、看護師の実務経験があり、本大学院における個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた場合には、出願資格が与えられます。

※横浜創英大学へのアクセス

- ・JR 横浜線十日市場駅よりバスで7分、東急田園都市線青葉台駅よりバスで17分（郵便局前バス停下車）、バス停より徒歩5分
- ・相鉄線三ツ境駅よりバスで14分（霧が丘高校前バス停下車）、バス停より徒歩15分

(注) 上記内容は現在検討中のものであり、今後変更される場合があります。

(資料9)

看護系教職員募集一覧

平成26年11月17日時点

	大学名	学部	学科	職位	募集人数	
1	帝京科学大学	医療科学部	看護学科	准教授または講師	1名	成人
2	茨城キリスト教大学	看護学部		助教	1名	老年
3	〃	看護学部		准教授または講師	1名	老年
4	国立看護大学校	看護学部		講師または助教	1名	基礎
5	桐生大学	医療保健学部	看護学科	教授・准教授・常勤講師	1名	公衆衛生
6	武蔵野大学	看護学部	看護学科	准教授もしくは講師	1名	基礎
7	首都大学東京	健康福祉学部	看護学科	助教	1名	助産学
8	桐生大学	医療保険学部	看護学科	教授・准教授・講師	1名	高齢期
9	〃	〃	〃	助手	1名	研究教育補助
10	〃	別科助産専攻		助手	1名	
11	〃	〃	〃	教授・准教授・講師	1名	基礎・成人
12	横浜創英大学	看護学部		助手	1名	基礎実習
13	淑徳大学	看護栄養学部	事務部	教授または准教授	1名	精神
14	〃	〃	〃	助教または助手	1名	成人
15	〃	〃	〃	助教または助手	1名	精神
16	〃	〃	〃	教授または准教授	1名	老年
17	東海大学	健康科学部	看護学科	准教授または講師	1名	成人
18	〃	〃	〃	准教授または講師	1名	地域
19	〃	〃	〃	助教	1名	地域
20	国立看護大学校	看護学部		教授	1名	在宅
21	東海大学医療技術短期大学		看護学科	教授、准教授または講師	1名	精神
22	神奈川県立保健福祉大学		看護学科	助教	1名	在宅・地域
23	聖徳大学	看護学部	看護学科	助手	若干名	基礎・成人・老年・ 地域・精神・母性・ 小児
24	自治医科大学	看護学部		准教授または講師	1名	成人
25	〃	〃	〃	助教	1名	成人
26	北里大学	看護学部		教授	1名	成人
27	イムス横浜国際看護専門学校	教務		専任教員	3名	専門学校・小中高 等の教員担当
28	北里大学	看護学部		准教授	1名	成人
29	〃	〃		教授	1名	看護情報学関連
30	西武文理大学	看護学部	看護学科	准教授または講師	1名	母性
31	千葉県立保健医療大学	健康科学部	看護学科	助教	1名	基礎
32	群馬大学	大学院保健科学研究科		助教	1名	慢性
33	〃	〃		講師及び助教	2名	在宅
34	西武文理大学	看護学部	看護学科	講師または助教	1名	基礎と実習
35	〃	〃	〃	常勤助手	1名	授業・実習・演習補助
36	文京学院大学	保健医療技術学部	看護学科	助教	1名	老年
37	東邦大学	看護学部	看護学科	教授	1名	在宅
38	筑波大学	医学医療系		助教	1名	国際
39	栃木県立がんセンター	医学研究室		研究助手	1名	
40	横浜市立大学	医学部看護学科・大学院医学研究科		准教授または講師	1名	成人・感染
41	茨城キリスト教大学	看護学部		助教	1名	在宅
42	横浜市立大学	医学部	看護学科	助教	1名	母性

	大学名	学部	学科	職位	募集人数	
43	了徳寺大学	健康科学部	看護学科	研究・教育補助者	若干名	実習指導
44	〃	〃	〃	助教	2名	小児・公衆衛生
45	群馬県立県民健康科学大学	看護学部	看護学科	准教授	1名	生涯発達(乳児期・学童期)
46	〃	〃	〃	准教授	1名	生涯発達(思春期・青年期)
47	関東学院大学	看護学部		助手	1名	母性
48	帝京平成大学	地域医療学部	看護学科	准教授・講師・助教	3名	成人
49	群馬県立県民健康科学大学	看護学部	看護学科	教授	1名	老年
50	〃	〃	〃	講師	1名	母性
51	目白大学	看護学部	看護学科	教授または准教授	1名	健康障害論等
52	〃	〃	〃	助教	1名	在宅
53	〃	〃	〃	助教	1名	基礎
54	北里大学	看護学部		助手	1名	急性期
55	神奈川歯科大学	短期大学部		教授、准教授・講師、助教	5名	老年・小児・基礎・母性
56	千葉県立保健医療大学	健康科学部	看護学科	准教授	1名	基礎
57	横浜市立大学	医学・病院統括部		非常勤助手	若干名	基礎
58	群馬大学	大学院保健学研究科		助教	1名	老年
59	首都大学東京	健康福祉学部	看護学科	非常勤講師	5名	在宅
60	ユナイテッドヘルスコミュニケーション(株)			クリニカルリサーチャー	1名	

出典：科学技術振興機構 求人公募情報(平成26年11月17日)

(別紙 1)

横浜創英大学大学院修士課程設置に関するアンケート調査

報 告 書

平成 26 年 12 月

一般財団法人 日本開発構想研究所

目 次

I	アンケート調査概要	1
II	アンケート調査結果概要	2
1	在学学生アンケート調査	2
2	社会人（看護師）アンケート調査	4
III	横浜創英大学大学院看護学研究科修士課程における 学生確保の見通しについて	10
IV	各アンケート調査結果	12

I アンケート調査概要

1 調査目的

平成 28 年度開設予定の横浜創英大学大学院看護学研究科に関して、横浜創英大学看護学部在学学生及び社会人（現職看護師）の進学意向等を把握することを目的とする。

2 実施アンケート

- ① 在学生アンケート調査
- ② 社会人（看護師）アンケート調査

3 調査対象

- ① 在学生アンケート調査
横浜創英大学看護学部在学学生
- ② 社会人（看護師）アンケート調査
東京都及び神奈川県所在の医療施設内職員

4 実施時期

平成 26 年 10 月～11 月

5 調査方法

- ① 在学生アンケート調査
在学生へ直接調査票を配布・回収。
- ② 社会人（看護師）アンケート調査
各医療機関・施設等に調査票を配布後、各医療機関・施設等にて看護師に配布。各医療機関・施設にて回収後、大学が回収。

6 回収状況

- ① 在学生アンケート調査
配布数：276 回収数：272 回収率：98.6%
- ② 社会人（看護師）アンケート調査
配布数：3,365 回収数：1,534 回収率：45.6%

Ⅱ アンケート調査結果概要

1 在学生アンケート調査

(1) 学年

回答者の学年別内訳は、「1 学年」92 人（33.8%）、
「2 学年」87 人（32.0%）、「3 学年」93 人（34.2%）。

No.	カテゴリ	件数	%
①	1 学年	92	33.8
②	2 学年	87	32.0
③	3 学年	93	34.2
	合計	272	100.0

(2) 本学に大学院修士課程を設置することについて

1) 看護学の大学院（修士課程）について調べた経験について

看護学の大学院（修士課程）
について調べた経験があるのは
回答者全体で 68 人（25.0%）
であり、4 人に 1 人は看護学の
大学院（修士課程）について調

No.	カテゴリ	1 学年		2 学年		3 学年		合 計	
		件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
①	ある	27	29.3	22	25.3	19	20.4	68	25.0
②	ない	61	66.3	65	74.7	74	79.6	200	73.5
	不明	4	4.3	0	0.0	0	0.0	4	1.5
	合計	92	100.0	87	100.0	93	100.0	272	100.0

べた経験があると回答している。学年別で見ると、1 学年は 27 人（29.3%）、2 学年は
22 人（25.3%）、3 学年は 19 人（20.4%）であり、学年が下がるほど調べた経験がある回
答者が多くなっている。

2) 大学卒業後に大学院（修士課程）で学ぶことについて

大学卒業後に大学院（修士課
程）で学んでみたいと「強く思
う」回答者は全体で 13 人
（4.8%）、「少し思っている」の
は 59 人（21.7%）であり、こ
れらを合計すると 72 人（26.5%）

No.	カテゴリ	1 学年		2 学年		3 学年		合 計	
		件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
①	強く思う	7	7.6	2	2.3	4	4.3	13	4.8
②	少し思っている	23	25.0	14	16.1	22	23.7	59	21.7
③	思わない	20	21.7	17	19.5	29	31.2	66	24.3
④	考えたことがない	38	41.3	54	62.1	36	38.7	128	47.1
	不明	4	4.3	0	0.0	2	2.2	6	2.2
	合計	92	100.0	87	100.0	93	100.0	272	100.0

は大学院（修士課程）で学ぶことを考えていることになる。特に 1 学年では「強く思う」
7 人（7.6%）、「少し思っている」23 人（25.0%）であり、1 学年の学生の約 3 分の 1
は大学院で学ぶことに関心を寄せている。

3) 本学に大学院修士課程を設置することについて

本学に大学院修士課程を「設置したほうがよい」とする回答者は全体で 65 人 (23.9%)、「設置しなくてもよい」は 58 人 (21.3%)、「ど

No.	カテゴリ	1 学年		2 学年		3 学年		合 計	
		件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
①	設置したほうがよい	30	32.6	14	16.1	21	22.6	65	23.9
②	設置しなくてもよい	16	17.4	25	28.7	17	18.3	58	21.3
③	どちらでもよい	41	44.6	46	52.9	53	57.0	140	51.5
	不明	5	5.4	2	2.3	2	2.2	9	3.3
	合計	92	100.0	87	100.0	93	100.0	272	100.0

ちらでもよい」は 140 人 (51.5%) である。学年別に見ると、2 学年では「設置したほうがよい」14 人 (16.1%) よりも「設置しなくてもよい」25 人 (28.7%) の方が多いが、3 学年及び 1 学年では「設置したほうがよい」の方が多く (3 学年 21 人、22.6%、1 学年 30 人、32.6%)。

4) 本学大学院修士課程への進学意向

本学に大学院修士課程が設置されたら「卒業後すぐに入学して学びたい」のは 8 人 (2.9%)、「何年か仕事をしてから入学したい」のは 23 人 (8.5%) であり、合計すると 31 人が入学したいと考えている。また、「考えているが迷っている」回答者は 13 人 (4.8%)、「他の大学の修士課

No.	カテゴリ	1 学年		2 学年		3 学年		合 計	
		件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
①	卒業後すぐに入学して学びたい	3	3.3	2	2.3	3	3.2	8	2.9
②	何年か仕事をしてから入学したい	8	8.7	5	5.7	10	10.8	23	8.5
③	現在は入学するつもりはない	29	31.5	31	35.6	37	39.8	97	35.7
④	まだ考えたことがない	35	38.0	40	46.0	28	30.1	103	37.9
⑤	考えているが迷っている	7	7.6	1	1.1	5	5.4	13	4.8
⑥	他の大学の修士課程で学びたい	5	5.4	8	9.2	8	8.6	21	7.7
	不明	5	5.4	0	0.0	2	2.2	7	2.6
	合計	92	100.0	87	100.0	93	100.0	272	100.0

程で学びたい」回答者は 21 人 (7.7%) となっている。

5) 大学院（修士課程）にできるという領域（複数回答）

大学院（修士課程）に設置する
 るといい領域としては、「救急看護」110人（40.4%）が最も多く、次いで「がん看護」82人（30.1%）、「小児看護」66人（24.3%）、「母性看護」60人（22.1%）などとなっている。
 学年別に見ると、3学年で多いのは「救急看護」44人（47.3%）、
 「母性看護」29人（31.2%）、2学年では「がん看護」34人（39.1%）、「救急看護」32人（36.8%）、1学年では「救急看護」34人（37.0%）、「がん看護」30人（32.6%）などとなっている。

No.	カテゴリ	1 学年		2 学年		3 学年		合 計	
		件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
①	がん看護	30	32.6	34	39.1	18	19.4	82	30.1
②	急性期看護	10	10.9	10	11.5	20	21.5	40	14.7
③	慢性期看護	4	4.3	9	10.3	4	4.3	17	6.3
④	看護管理	2	2.2	2	2.3	6	6.5	10	3.7
⑤	看護倫理	0	0.0	3	3.4	2	2.2	5	1.8
⑥	感染看護	10	10.9	10	11.5	15	16.1	35	12.9
⑦	救急看護	34	37.0	32	36.8	44	47.3	110	40.4
⑧	看護技術	8	8.7	9	10.3	15	16.1	32	11.8
⑨	老年看護	14	15.2	20	23.0	7	7.5	41	15.1
⑩	母性看護	14	15.2	17	19.5	29	31.2	60	22.1
⑪	小児看護	23	25.0	24	27.6	19	20.4	66	24.3
⑫	精神看護	15	16.3	15	17.2	7	7.5	37	13.6
⑬	地域看護	7	7.6	6	6.9	4	4.3	17	6.3
⑭	在宅看護	14	15.2	6	6.9	7	7.5	27	9.9
⑮	家族看護	5	5.4	4	4.6	1	1.1	10	3.7
⑯	看護教育	14	15.2	2	2.3	9	9.7	25	9.2
⑰	その他	4	4.3	5	5.7	8	8.6	17	6.3
	不明	10	10.9	3	3.4	9	9.7	22	8.1
	合計	92	100.0	87	100.0	93	100.0	272	100.0

2 社会人（看護師）アンケート調査

(1) 属性

1) 現在の住まい

回答者の居住地については、「横浜市」と横浜市及び相模原市以外の「神奈川県」がともに 600人（39.1%）であり、「相模原市」の 66人（4.3%）を加えると、神奈川県内居住者が 1,266人（82.5%）を占めている。「東京都」は 238人（15.5%）。

No.	カテゴリ	看護師	
		件数	%
①	横浜市	600	39.1
②	相模原市	66	4.3
③	①②以外の神奈川県	600	39.1
④	東京都	238	15.5
⑤	①～④以外	4	0.3
	不明	26	1.7
	合計	1,534	100.0

2) 性別

回答者の性別については、「女性」が 1,381 人 (90.0%)、「男性」が 110 人 (7.2%) であり、ほぼ 9 割が女性回答者である。

No.	カテゴリ	看護師	
		件数	%
①	女性	1,381	90.0
②	男性	110	7.2
	不明	43	2.8
	合計	1,534	100.0

3) 年齢

回答者の年齢については、「20 歳代後半」が 286 人 (18.6%) で最も多いが、「20 歳代前半」212 人 (13.8%)、「30 歳代前半」246 人 (16.0%)、「30 歳代後半」257 人 (16.8%)、「40 歳代前半」252 人 (16.4%) であり、各年代にバランスよく分散している。「40 歳代後半」は 123 人 (8.0%)、「50 歳代以降」は 131 人 (8.5%)。

No.	カテゴリ	看護師	
		件数	%
①	20 歳代前半	212	13.8
②	20 歳代後半	286	18.6
③	30 歳代前半	246	16.0
④	30 歳代後半	257	16.8
⑤	40 歳代前半	252	16.4
⑥	40 歳代後半	123	8.0
⑦	50 歳代以降	131	8.5
	不明	27	1.8
	合計	1,534	100.0

4) 最終学歴

回答者の最終学歴については、「専門学校」が 967 人 (63.0%) で最も多く、「大学」は 227 人 (14.8%)、横浜創英短期大学を除く「短期大学」は 204 人 (13.3%) などとなっている。

No.	カテゴリ	看護師	
		件数	%
①	高等学校	54	3.5
②	専門学校	967	63.0
③	短期大学 (④を除く)	204	13.3
④	横浜創英短期大学	16	1.0
⑤	大学	227	14.8
⑥	大学院 (修士課程)	27	1.8
⑦	大学院 (博士課程)	1	0.1
	不明	38	2.5
	合計	1,534	100.0

5) 看護師としての経験年数

回答者の看護師としての経験年数については、「5年～10年未満」が292人（19.0%）で最も多く、次いで「10年～15年未満」263人（17.1%）、「15年～20年未満」200人（13.0%）、「3年～5年未満」169人（11.0%）、「20年～25年未満」169人（11.0%）などとなっている。

カテゴリ	看護師	
	件数	%
1年未満	94	6.1
1年～2年未満	90	5.9
2年～3年未満	75	4.9
3年～5年未満	169	11.0
5年～10年未満	292	19.0
10年～15年未満	263	17.1
15年～20年未満	200	13.0
20年～25年未満	169	11.0
25年～30年未満	70	4.6
30年以上	77	5.0
不明	35	2.3
合計	1,534	100.0

6) 現在の職種（複数回答）

回答者の現在の職種については、「看護師」が1,437人（93.7%）であり、回答者のほとんどは現在「看護師」として勤務している。「助産師」は60人（3.9%）、「保健師」は20人（1.3%）である。

No.	カテゴリ	看護師	
		件数	%
①	看護師	1,437	93.7
②	保健師	20	1.3
③	助産師	60	3.9
④	養護教諭	0	0.0
⑤	看護教員	2	0.1
⑥	その他	10	0.7
	不明	27	1.8
	合計	1,534	100.0

7) 現在の勤務先

回答者の現在の勤務先については、「病院」が1,488人（97.0%）であり、回答者のほとんどが病院で働く看護師である。病院以外では「福祉施設」2人（0.1%）、「診療所」及び「教育機関」がともに1人（0.1%）。

No.	カテゴリ	看護師	
		件数	%
①	病院	1,488	97.0
②	診療所	1	0.1
③	行政機関	0	0.0
④	教育機関	1	0.1
⑤	福祉施設	2	0.1
⑥	その他	0	0.0
	不明	42	2.7
	合計	1,534	100.0

(2) 大学院への進学について

1) 進学意向

回答者のうち大学院に「ぜひ進学したい」と回答したのは 32 人 (2.1%)、「できれば進学したい」は 59 人 (3.8%)、「条件が整えば進学したい」は 175 人 (11.4%) であり、これらを合わせると 266 人 (17.3%) が大学院への進学を希望していると言える。また、「将来の選択肢の一つとして考えたい」は 227 人 (14.8%) である。

No.	カテゴリ	看護師	
		件数	%
①	ぜひ進学したい	32	2.1
②	できれば進学したい	59	3.8
③	条件が整えば進学したい	175	11.4
④	将来の選択肢の一つとして考えたい	227	14.8
⑤	今は分からない	220	14.3
⑥	進学は考えていない	767	50.0
	不明	54	3.5
	合計	1,534	100.0

2) 大学院進学を考えた際に問題になり得ること（複数回答）

大学院進学に際して問題になると思われる事項は、「学費などの経済面」が 1,079 人 (70.3%) で最も多く、「仕事との両立」も 1,061 人 (69.2%) にのぼっている。「家庭との両立」は 619 人 (40.4%)、「現在の勤務先との距離」は 339 人 (22.1%)。

No.	カテゴリ	看護師	
		件数	%
①	仕事との両立	1,061	69.2
②	学費など経済面	1,079	70.3
③	現在の勤務先との距離	339	22.1
④	家庭との両立	619	40.4
⑤	問題はない	37	2.4
⑥	その他	66	4.3
	不明	64	4.2
	合計	1,534	100.0

3) 大学院入学の目的

大学院入学の目的で最も多いのは「専門領域での学修」559 人 (36.4%) であり、「専門看護師」も 526 人 (34.3%) で 3 分の 1 を超えている。また、「キャリア形成」365 人 (23.8%) も比較的多い。「学位取得」は 118 人 (7.7%)、「研究課題の究明」は 43 人 (2.8%)。

No.	カテゴリ	看護師	
		件数	%
①	専門領域での学修	559	36.4
②	キャリア形成	365	23.8
③	専門看護師	526	34.3
④	学位取得	118	7.7
⑤	研究課題の究明	43	2.8
⑥	その他	34	2.2
	不明	102	6.6
	合計	1,534	100.0

4) 関心のある領域（複数回答）

関心を持っている領域を見ると、「急性期看護」が 397 人（25.9%）で最も多く、「がん看護」が 389 人（25.4%）が続いている。このほか「在宅看護」283 人（18.4%）、「家族看護」257 人（16.8%）、「救急看護」237 人（15.4%）、「地域看護」228 人（14.9%）、「老年看護」224 人（14.6%）などとなっている。

No.	カテゴリ	看護師	
		件数	%
①	がん看護	389	25.4
②	急性期看護	397	25.9
③	慢性期看護	177	11.5
④	看護管理	172	11.2
⑤	看護倫理	75	4.9
⑥	感染看護	92	6.0
⑦	救急看護	237	15.4
⑧	看護技術	87	5.7
⑨	老年看護	224	14.6
⑩	母性看護	136	8.9
⑪	小児看護	149	9.7
⑫	精神看護	160	10.4
⑬	地域看護	228	14.9
⑭	在宅看護	283	18.4
⑮	家族看護	257	16.8
⑯	看護教育	163	10.6
⑰	その他	125	8.1
	不明	169	11.0
	合計	1,534	100.0

(3) 横浜創英大学について

1) 横浜創英大学大学院看護学研究科修士課程への進学意向

横浜創英大学に大学院看護学研究科修士課程が設置された場合の進学意向を見ると、進学を「希望する」のは 25 人（1.6%）であり、「将来的に希望する」は 48 人（3.1%）となっている。

No.	カテゴリ	看護師	
		件数	%
①	希望する	25	1.6
②	将来的に希望する	48	3.1
③	今は分からない	691	45.0
④	希望しない	626	40.8
	不明	144	9.4
	合計	1,534	100.0

2) 進学しやすい横浜創英大学の学習環境

横浜創英大学の大学院に進学するにあたり、どのような学習環境があれば進学しやすいか尋ねたところ、「奨学金制度」が 824 人（53.7%）で最も多く、半数以上が回答している。また、「長期履修制度」も 617 人（40.2%）、「土・日・祝日の開講」604 人（39.4%）、「夜間の開講」590 人（38.5%）であり、いずれも 4 割前後が回答している。

No.	カテゴリ	看護師	
		件数	%
①	夜間の開講	590	38.5
②	土・日・祝日の開講	604	39.4
③	長期履修制度	617	40.2
④	奨学金制度	824	53.7
⑤	その他	38	2.5
	不明	220	14.3
	合計	1,534	100.0

Ⅲ 横浜創英大学大学院看護学研究科修士課程における学生確保の見通しについて

横浜創英大学に大学院看護学研究科修士課程を設置した場合に進学したい意向を示した回答者について、社会人及び在学生の回答結果を整理すると、次の表の通りである。

横浜創英大学大学院修士課程への進学意向

	希望する	将来的に希望する	卒業後すぐに入学して学びたい	何年か仕事をしてから入学したい
社会人（看護師）	25（1.6%）	48（3.1%）	—	—
在学生（合計）	—	—	8（2.9%）	23（8.5%）
1 学年	—	—	3（3.3%）	8（8.7%）
2 学年	—	—	2（2.3%）	5（5.7%）
3 学年	—	—	3（3.2%）	10（10.8%）

数字は回答者数、（ ）内は回答割合

横浜創英大学大学院看護学研究科修士課程の入学定員は 6 人を予定している。今回のアンケート調査では、25 人の現職の看護師が進学したい意向を示していることから、今回のアンケート調査に限っていても入学定員（6 人）を超える進学希望者の存在が確認できる。

在学生においても、大学卒業後ストレートで大学院に進学したい意向を示しているのが 8 人、大学卒業後実務経験を経てから大学院に進学したい意向を示しているのが 23 人おり、看護師と合わせて、現段階で 30 人程度の進学希望者がいると言えよう。

また、48 人の現職の看護師は将来的に進学したいと回答している。実務経験後に大学院進学を希望している在学生とともに、将来の大学院進学者として期待できることから、中長期的に見ても学生を確保出来る可能性は高いと考えられる。

さらに、社会人の最終学歴別に進学意向をまとめたものが次の表である。進学を希望しているのは専門学校卒が 19 人、大学卒が 4 人であるが、横浜創英短期大学看護学科の卒業生（16 人）については、4 人が「将来的に希望する」を回答している。回答者 16 人のうち実に 25%が将来の大学院進学を希望していることから、横浜創英短期大学卒業生については横浜創英大学大学院看護学研究科への関心がより高いと考えられる。

社会人（看護師）の最終学歴別に見た横浜創英大学大学院看護学研究科への進学意向

	① 希望する	② 将来的に希望する	③ 今は分からない	④ 希望しない	不明	合計
高等学校	0 (0.0%)	2 (3.7%)	24 (44.4%)	21 (38.9%)	7 (13.0%)	54 (100.0%)
専門学校	19 (2.0%)	27 (2.8%)	446 (46.1%)	398 (41.2%)	77 (8.0%)	967 (100.0%)
短期大学（創英短大を除く）	1 (0.5%)	7 (3.4%)	100 (49.0%)	84 (41.2%)	12 (5.9%)	204 (100.0%)
横浜創英短期大学	0 (0.0%)	4 (25.0%)	5 (31.3%)	4 (25.0%)	3 (18.8%)	16 (100.0%)
大 学	4 (1.8%)	8 (3.5%)	103 (45.4%)	94 (41.4%)	18 (7.9%)	227 (100.0%)
大学院（修士課程）	0 (0.0%)	0 (0.0%)	6 (22.2%)	20 (74.1%)	1 (3.7%)	27 (100.0%)
大学院（博士課程）	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (100.0%)	0 (0.0%)	1 (100.0%)
不 明	1 (2.6%)	0 (0.0%)	7 (18.4%)	4 (10.5%)	26 (68.4%)	38 (100.0%)
合 計	25 (1.6%)	48 (3.1%)	691 (45.0%)	626 (40.8%)	144 (9.4%)	1,534 (100.0%)

上段は回答者数、下段は回答割合

一般論として、社会人の大学院進学意向を見ると、「ぜひ進学したい」（32人、2.1%）、
「できれば進学したい」（59人、3.8%）、「条件が整えば進学したい」（175人、11.4%）、
「将来の選択肢の一つとして考えたい」（227人、14.8%）といった大学院進学に関心がある回答は、合計すると社会人回答者の32.1%を占めることになる。

経済的条件や勤務先との関係などもあり、関心はあっても大学院に進学するとは限らないが、潜在的なマーケットという意味では大学院進学ニーズは相当数あると期待できる。中長期的な取組として、横浜創英大学における大学院の学習環境の整備や修士課程修了生の輩出実績を積むことにより、大学院としての魅力を高め、大学院進学に関心がある看護師の潜在的ニーズを掘り起こし、進学希望者の獲得につなげていくことが望まれる。

IV 各アンケート調査結果

<在学生アンケート調査票>

1. あなたの学年について、次のことに該当する箇所に○をつけて下さい。

学年： ①1 学年 ②2 学年 ③3 学年

2. 本学に大学院修士課程を設置することについて以下の問いの該当する箇所に○を付けてください。

1) あなたは看護学の大学院（修士課程）について調べてみたことがありますか。

①ある ②ない

2) あなたは大学卒業後、大学院（修士課程）で学んでみたいと思いますか。

①強く思う ②少し思っている ③思わない ④考えたことがない

3) あなたは本学に大学院修士課程を設置することに対してどう考えますか。

①設置したほうがよい ②設置しなくてもよい ③どちらでもよい

4) あなたは本学に大学院修士課程が設置できたら入学しますか。

①卒業後すぐに入学して学びたい ②何年か仕事をしてから入学したい
③現在は入学するつもりはない ④まだ考えたことがない
⑤考えているが迷っている ⑥他の大学の修士課程で学びたい

5) 大学院（修士課程）にどのような領域ができるといいと思いますか。学びたい、学びたくないにかかわらずお答え下さい。（複数回答可。ただし3つまで）

① がん看護 ② 急性期看護 ③ 慢性期看護 ④ 看護管理
⑤ 看護倫理 ⑥ 感染看護 ⑦ 救急看護 ⑧ 看護技術
⑨ 老年看護 ⑩ 母性看護 ⑪ 小児看護 ⑫ 精神看護
⑬ 地域看護 ⑭ 在宅看護 ⑮ 家族看護 ⑯ 看護教育
⑰ その他

ご協力ありがとうございました。

お問い合わせ先

横浜創英大学大学院設置準備室

清水、鈴木

電話 045-922-5641（内線 1215）

045-922-5641（内線 1222）

在学生アンケート集計表

〔有効回答票：272 票〕

- 1 あなたの学年について、次のことに該当する箇所に○をつけて下さい。

No.	カテゴリ	件数	%
①	1 学年	92	33.8
②	2 学年	87	32.0
③	3 学年	93	34.2
	合計	272	100.0

- 2 本学に大学院修士課程を設置することについて以下の問いの該当する箇所に○を付けて下さい。

- 1) あなたは看護学の大学院（修士課程）について調べてみたことがありますか。

No.	カテゴリ	1 学年		2 学年		3 学年		合 計	
		件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
①	ある	27	29.3	22	25.3	19	20.4	68	25.0
②	ない	61	66.3	65	74.7	74	79.6	200	73.5
	不明	4	4.3	0	0.0	0	0.0	4	1.5
	合計	92	100.0	87	100.0	93	100.0	272	100.0

- 2) あなたは大学卒業後、大学院（修士課程）で学んでみたいと思いますか。

No.	カテゴリ	1 学年		2 学年		3 学年		合 計	
		件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
①	強く思う	7	7.6	2	2.3	4	4.3	13	4.8
②	少し思っている	23	25.0	14	16.1	22	23.7	59	21.7
③	思わない	20	21.7	17	19.5	29	31.2	66	24.3
④	考えたことがない	38	41.3	54	62.1	36	38.7	128	47.1
	不明	4	4.3	0	0.0	2	2.2	6	2.2
	合計	92	100.0	87	100.0	93	100.0	272	100.0

3) あなたは本学に大学院修士課程を設置することに対してどう考えますか。

No.	カテゴリー	1 学年		2 学年		3 学年		合 計	
		件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
①	設置したほうがよい	30	32.6	14	16.1	21	22.6	65	23.9
②	設置しなくてもよい	16	17.4	25	28.7	17	18.3	58	21.3
③	どちらでもよい	41	44.6	46	52.9	53	57.0	140	51.5
	不明	5	5.4	2	2.3	2	2.2	9	3.3
	合計	92	100.0	87	100.0	93	100.0	272	100.0

4) あなたは本学に大学院修士課程ができれば入学しますか。

No.	カテゴリー	1 学年		2 学年		3 学年		合 計	
		件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
①	卒業後すぐに入学して学びたい	3	3.3	2	2.3	3	3.2	8	2.9
②	何年か仕事をしてから入学したい	8	8.7	5	5.7	10	10.8	23	8.5
③	現在は入学するつもりはない	29	31.5	31	35.6	37	39.8	97	35.7
④	まだ考えたことがない	35	38.0	40	46.0	28	30.1	103	37.9
⑤	考えているが迷っている	7	7.6	1	1.1	5	5.4	13	4.8
⑥	他の大学の修士課程で学びたい	5	5.4	8	9.2	8	8.6	21	7.7
	不明	5	5.4	0	0.0	2	2.2	7	2.6
	合計	92	100.0	87	100.0	93	100.0	272	100.0

5) 大学院（修士課程）にどのような領域ができるといいと思いますか。学びたい、学びたくないにかかわらずお答え下さい。（複数回答）

No.	カテゴリ	1 学年		2 学年		3 学年		合 計	
		件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
①	がん看護	30	32.6	34	39.1	18	19.4	82	30.1
②	急性期看護	10	10.9	10	11.5	20	21.5	40	14.7
③	慢性期看護	4	4.3	9	10.3	4	4.3	17	6.3
④	看護管理	2	2.2	2	2.3	6	6.5	10	3.7
⑤	看護倫理	0	0.0	3	3.4	2	2.2	5	1.8
⑥	感染看護	10	10.9	10	11.5	15	16.1	35	12.9
⑦	救急看護	34	37.0	32	36.8	44	47.3	110	40.4
⑧	看護技術	8	8.7	9	10.3	15	16.1	32	11.8
⑨	老年看護	14	15.2	20	23.0	7	7.5	41	15.1
⑩	母性看護	14	15.2	17	19.5	29	31.2	60	22.1
⑪	小児看護	23	25.0	24	27.6	19	20.4	66	24.3
⑫	精神看護	15	16.3	15	17.2	7	7.5	37	13.6
⑬	地域看護	7	7.6	6	6.9	4	4.3	17	6.3
⑭	在宅看護	14	15.2	6	6.9	7	7.5	27	9.9
⑮	家族看護	5	5.4	4	4.6	1	1.1	10	3.7
⑯	看護教育	14	15.2	2	2.3	9	9.7	25	9.2
⑰	その他	4	4.3	5	5.7	8	8.6	17	6.3
	不明	10	10.9	3	3.4	9	9.7	22	8.1
	計	92	100.0	87	100.0	93	100.0	272	100.0

＜社会人（看護師）アンケート調査票＞

1. 次の項目についてお聞きします。該当する箇所に○をお付けください。

1) 現在のお住まいの地域

- ① 横浜市 ② 相模原市 ③ ①②以外の神奈川県 ④ 東京都
⑤ ①～④以外 ()

2) 性別

- ① 女性 ② 男性

3) 年齢

- ① 20歳代前半 ② 20歳代後半 ③ 30歳代前半 ④ 30歳代後半
⑤ 40歳代前半 ⑥ 40歳代後半 ⑦ 50歳代以降

4) 最終学歴

- ① 高等学校 ② 専門学校 ③ 短期大学 (④を除く)
④ 横浜創英短期大学 ⑤ 大学 ⑥ 大学院 (修士課程)
⑦ 大学院 (博士課程)

5) 看護職としての経験年数 (非常勤・嘱託等も含む)

() 年 () か月

6) 現在の職種

- ① 看護師 ② 保健師 ③ 助産師 ④ 養護教諭
⑤ 看護教員 ⑥ その他 ()

7) 現在の勤務先

- ① 病院 ② 診療所 ③ 行政機関 ④ 教育機関
⑤ 福祉施設 ⑥ その他 ()

2. 大学院への進学についてお聞きします。該当する箇所に○をお付けください。

1) 大学院への進学について考えていますか。

- ① ぜひ進学したい ② できれば進学したい
③ 条件が整えば進学したい ④ 将来の選択肢の一つとして考えたい
⑤ 今は分からない ⑥ 進学は考えていない

2) あなたにとって大学院進学を考えた際、問題となり得ることは何ですか。

該当するものすべてに○をお付けください。

- ① 仕事との両立 ② 学費など経済面 ③ 現在の勤務先との距離
④ 家庭との両立 ⑤ 問題はない ⑥ その他 ()

3) 大学院への入学を考える際、その目的は何ですか。最も重きを置くもの1つに○をお付けください。

- ① 専門領域での学修 ② キャリア形成 ③ 専門看護師
④ 学位取得 ⑤ 研究課題の究明 ⑥ その他 ()

4) どのような領域に関心をおもちですか。該当するもの全てに○をお付けください。

- | | | | |
|--------|---------|---------|--------|
| ① がん看護 | ② 急性期看護 | ③ 慢性期看護 | ④ 看護管理 |
| ⑤ 看護倫理 | ⑥ 感染看護 | ⑦ 救急看護 | ⑧ 看護技術 |
| ⑨ 老年看護 | ⑩ 母性看護 | ⑪ 小児看護 | ⑫ 精神看護 |
| ⑬ 地域看護 | ⑭ 在宅看護 | ⑮ 家族看護 | ⑯ 看護教育 |
| ⑰ その他 | | | |

3. 横浜創英大学についてお聞きます。該当する箇所に○をお付けください。

1) 横浜創英大学に大学院看護研究科修士課程ができたなら進学を希望されますか。

- ① 希望する ② 将来的に希望する ③ 今は分からない
④ 希望しない

2) 横浜創英大学にどのような学習環境があれば進学しやすいと思われますか。該当するものすべてに○をお付けください。

- ① 夜間の開講 ② 土・日・祝日の開講 ③ 長期履修制度
④ 奨学金制度 ⑤ その他 ()

(注)「長期履修制度」とは、学生が職業等を有している等の事情により標準修業年限(修士課程は2年)を超えて一定の期間(3年、4年など)にわたり計画的に教育課程を履修し修了する制度。学費は標準修業年限で修了する場合と同額。

質問は以上です。
ご協力ありがとうございました。

お問い合わせ先
横浜創英大学大学院設置準備室
清水、鈴木
電話 045-922-5641 (内線1215)
045-922-5641 (内線1222)

社会人（看護師）アンケート集計表

〔有効回答票：1,534 票〕

1 次の項目についてお聞きます。該当するところに○をお付けください。

1) 現在のお住まいの地域

No.	カテゴリ	件数	%
①	横浜市	600	39.1
②	相模原市	66	4.3
③	①②以外の神奈川県	600	39.1
④	東京都	238	15.5
⑤	①～④以外	4	0.3
	不明	26	1.7
	合 計	1,534	100.0

⑤「①～④以外」の回答：なし

2) 性別

No.	カテゴリ	件数	%
①	女性	1,381	90.0
②	男性	110	7.2
	不明	43	2.8
	合 計	1,534	100.0

3) 年齢

No.	カテゴリ	件数	%
①	20 歳代前半	212	13.8
②	20 歳代後半	286	18.6
③	30 歳代前半	246	16.0
④	30 歳代後半	257	16.8
⑤	40 歳代前半	252	16.4
⑥	40 歳代後半	123	8.0
⑦	50 歳代以降	131	8.5
	不明	27	1.8
	合 計	1,534	100.0

4) 最終学歴

No.	カテゴリ	件数	%
①	高等学校	54	3.5
②	専門学校	967	63.0
③	短期大学（④を除く）	204	13.3
④	横浜創英短期大学	16	1.0
⑤	大学	227	14.8
⑥	大学院（修士課程）	27	1.8
⑦	大学院（博士課程）	1	0.1
	不明	38	2.5
	合 計	1,534	100.0

5) 看護職としての経験年数（非常勤・嘱託等も含む）

年数	件数	%	年数	件数	%
1 年未満	94	6.1	15 年～20 年未満	200	13.0
1 年～2 年未満	90	5.9	20 年～25 年未満	169	11.0
2 年～3 年未満	75	4.9	25 年～30 年未満	70	4.6
3 年～5 年未満	169	11.0	30 年以上	77	5.0
5 年～10 年未満	292	19.0	不明	35	2.3
10 年～15 年未満	263	17.1	合 計	1,534	100.0

6) 現在の職種（複数回答扱い）

No.	カテゴリ	件数	%
①	看護師	1,437	93.7
②	保健師	20	1.3
③	助産師	60	3.9
④	養護教諭	0	0.0
⑤	看護教員	2	0.1
⑥	その他	10	0.7
	不明	27	1.8
	合 計	1,534	100.0

⑥「その他」の回答

准看護師	専門看護師	管理職
看護師長	准看護師	准看護師
ケアマネージャー	准看護師	准看護師

※本来はシングルアンサーの設問だが、複数個所に○を付ける回答が多く見られたため、複数回答として集計。

※よって、合計は 1,534、100%にならない。

7) 現在の勤務先

No.	カテゴリ	件数	%
①	病院	1,488	97.0
②	診療所	1	0.1
③	行政機関	0	0.0
④	教育機関	1	0.1
⑤	福祉施設	2	0.1
⑥	その他	0	0.0
	不明	42	2.7
	合 計	1,534	100.0

⑥「その他」の回答：なし

2 大学院への進学についてお聞きします。該当するところに○をお付けください。

1) 大学院への進学について考えていますか。

No.	カテゴリ	件数	%
①	ぜひ進学したい	32	2.1
②	できれば進学したい	59	3.8
③	条件が整えば進学したい	175	11.4
④	将来の選択肢の一つとして考えたい	227	14.8
⑤	今は分からない	220	14.3
⑥	進学は考えていない	767	50.0
	不明	54	3.5
	合 計	1,534	100.0

2) あなたにとって大学院進学を考えた際、問題となり得ることは何ですか。(複数回答)

No.	カテゴリ	件数	%
①	仕事との両立	1,061	69.2
②	学費など経済面	1,079	70.3
③	現在の勤務先との距離	339	22.1
④	家庭との両立	619	40.4
⑤	問題はない	37	2.4
⑥	その他	66	4.3
	不明	64	4.2
	合 計	1,534	100.0

※複数回答のため、合計は1,534、100%にならない。

⑥「その他」の回答

興味がない	入試
学力・体力	プライベートとの調整
院外の仕事の両立調整	子育てとの両立
年齢	健康面
学力。年齢。	教員→自分のやりたい研究ができるか
年齢	学力
年齢	学力
年齢	学力不足
学力吸収力低下	年齢的なこと
学力	親の病
指導教育との関係性が良好にできそうか、研究テーマがある程度似ているか	過去に希望していたが、研究テーマに悩み、挫折した
体力	1歳の子がいるため、保育の問題
自宅からの距離、通勤時間	学習内容の質
年齢	学力
意味	興味
大学院進学の必要性	家庭からの距離
年齢	意欲が維持するかどうか
自宅との距離	教員の質
年齢	勉強の大変さ
学力	体力
まず大学へ行くこと	年齢
学力	学位の修得
専門学校卒ということ	年齢
大学院進学をすることが能力的に困難に感じる	専門学校卒なので、大学編入のための受験試験が合格できるか
自宅からの距離	体力
経験とやる気	履修内容、希望学校と自宅との距離
年齢	年齢

3) 大学院への入学を考える際、その目的は何ですか。最も重きを置くもの1つに○をお付けください。(複数回答扱い)

No.	カテゴリ	件数	%
①	専門領域での学修	559	36.4
②	キャリア形成	365	23.8
③	専門看護師	526	34.3
④	学位取得	118	7.7
⑤	研究課題の究明	43	2.8
⑥	その他	34	2.2
	不明	102	6.6
	合 計	1,534	100.0

⑥「その他」の回答

入学を考えたことはない。希望もないのでわからない
人間理解
環境へより良い看護をすること
教員への可能性
資格取得（助産師）
現場でのスキルアップ
保健師や養護教諭、助産師等の国試受験資格が取得出来ればとても魅力を感じる
現場を離れたい、環境を変えたいと思った時
広い学力知識を得ること
知識の獲得
収入アップ
助産師

※本来はシングルアンサーの設問だが、複数個所に○を付ける回答が多く見られたため、複数回答として集計。

※よって、合計は1,534、100%にならない。

4) どのような領域に関心をおもちですか。該当するもの全てに○をお付けください。(複数回答)

No.	カテゴリ	件数	%	No.	カテゴリ	件数	%
①	がん看護	389	25.4	⑩	母性看護	136	8.9
②	急性期看護	397	25.9	⑪	小児看護	149	9.7
③	慢性期看護	177	11.5	⑫	精神看護	160	10.4
④	看護管理	172	11.2	⑬	地域看護	228	14.9
⑤	看護倫理	75	4.9	⑭	在宅看護	283	18.4
⑥	感染看護	92	6.0	⑮	家族看護	257	16.8
⑦	救急看護	237	15.4	⑯	看護教育	163	10.6
⑧	看護技術	87	5.7	⑰	その他	125	8.1
⑨	老年看護	224	14.6		不明	169	11.0
					合 計	1,534	100.0

※複数回答のため、合計は1,534、100%にならない。

3 横浜創英大学についてお聞きします。該当するところに○をお付けください。

1) 横浜創英大学大学院修士課程ができれば進学を希望されますか。

No.	カテゴリ	件数	%
①	希望する	25	1.6
②	将来的に希望する	48	3.1
③	今は分からない	691	45.0
④	希望しない	626	40.8
	不明	144	9.4
	合 計	1,534	100.0

2) 横浜創英大学にどのような学習環境があれば進学しやすいと思われますか。該当するものすべてに○をお付けください。(複数回答)

No.	カテゴリ	件数	%
①	夜間の開講	590	38.5
②	土・日・祝日の開講	604	39.4
③	長期履修制度	617	40.2
④	奨学金制度	824	53.7
⑤	その他	38	2.5
	不明	220	14.3
	合 計	1,534	100.0

※複数回答のため、合計は1,534、100%にならない。

⑦「その他」の回答

進学を考えていないのでわかりません。
ネームバリュー。高い教育力。教授陣。
思いあたることがありません。
臨床心理
学生が使用できる研究費
通信講座
定員の増員
ネットなどを活用し、自宅での学習ができる環境
進学の希望がないので考えていない
e-learning(通信)
通学のしやすさ
助産学があるかどうか
通信教育
平日2、3日
平日(通常勤務時間帯9-17)での開講、e-ラーニングの採用等自宅でも可能な単位取得
託児所、小学生も預けられるような所(障害児も含めて)。
インターネットを利用する
保育所
減免制度。インターネットでの学習で単位医が取れる制度。母子家庭等でも学費を支払いやすいように割引して頂けるなど。)
短い期間で単位がとれる。
敷地内に保育園や学童保育がある。
学費がリーズナブルになると良い。
交通便

病院長・看護部長等へのインタビュー調査

回 答 者 質 問 事 項		大学病院A	大学病院B
		執行役員統括看護部長	副院長・看護部長
1	・現役看護師などに大学院進学を薦めたいと考えるか(その場合、薦める条件はあるか。何を期待するか。病院としてサポートする制度はあるか。)	大いに薦める。 ラダー4～5/7段階に達し、病院という組織に貢献できる人、人をまきこむ力をもった人であれば出張扱いで修学させることを考える。 現在もこの基準で出している。	極力薦めたい。 現在は1名、院に通っている。ウィークデーに院に通い、土日等は勤務している。有休を有効活用し、勤務との調整もできている。
2	・大学院修了者の採用についてどう考えるか(積極的か。待遇面の優遇はあるか。)	院卒の採用は既に行っている。出張扱いで派遣した院生であっても修了後すぐ待遇を良くするわけではないが、将来的に職位をあげるための推薦は行うことはあり得る。	積極的に採用したい。
3	・大学院修了者に期待することは何か(研究指導やリーダーシップの役割、認定・専門看護師資格取得など。)	1)人材育成力 2)看護ケアの質向上 特に、院外の看護の質向上に貢献してほしい。	専門職としての力量を発揮してくれる臨床の看護実践者 リーダーシップの発揮
4	・横浜創英大学の大学院に何があれば現役看護師などに進学を薦められるか。	臨床の中で、人間力をつけた実践力(看護現場)を発揮出来る人を育成する教育	リーダナーナースとして機能できる臨床での実践力育成 看護管理者育成 年齢に関係なく受験できること
5	・その他	現在は、出張扱いで年2～3人を大学院に派遣してる。	

大学病院C	大学病院D	市立医療センター
副院長・看護部長 キャリアアップのための進学はその後2～3年間組織に貢献するならば薦める。	副院長・看護部長 大いに薦める。当大学付属病院全体として学ぶことを推奨している。 院に入学した者は1年間休職扱いとしている。また、夜勤専従にするなど、離職をしないで学べるような対応も考えている。奨学金制度の活用なども薦めている。 いま横浜創英大学大学院に看護管理コースがあれば薦めたい人がいる。	院長、副病院長・看護部長 本人の希望による。特に優遇処置はない。
大学院を修了しても待遇面の優遇はない。	大卒と同様出来るだけ採りたいと思っている。	待遇面での差はない。
1)リーダーシップ 2)積極的な知識の活用 3)管理者としての具体的な対応策の考案	1)院内教育活動リーダーの役割 2)臨床実践能力の指導、教育力 3)今の若者のものの考え方を理解して指導する力 4)研究指導	打たれ強い人、自立できる人になって欲しい。
実践力や教育力、人を抱き込む力をつける教育	1)全般的な看護の実践力の育成 特にクリティカル分野の能力育成 2)観察力をケアにつなげる力の育成 3)看護記録記入の指導力育成 4)全般的な優れた看護の実践力をもった看護職の育成 5)認定看護管理者の育成	特にない。
今大学院に通っている者はいないが、昨年1名が博士課程を修了。(教育担当副看護部長)		働きながら学べることが重要

市立総合病院	総合病院A	総合病院B
看護部長 是非薦めたい。 地理的に近い横浜創英大学に院が出来れば通学の負担が軽い。社会人枠でラダー5年終了後に推薦する。	副院長・看護部長、副看護部長 本人の希望があれば薦めたい。 勤務を継続しながら通学するため、業務を免除することは可能。学費については、今後検討する予定。 高い実践スキルを持ったジェネラリストが必要であり、こうした人材に育ってもらうことを期待する。 業務を免除しながらも給与は通常勤務者の6割を支払っており、優遇しているほうだと思っている。このため、大学院修了後、すぐに辞められると困る。最低5年ぐらいはほしい。そのことが一番の悩みである。	病院長、副看護部長2名 横浜創英大学に大学院ができれば、距離的に近い。毎年2名ずつは出したい。サポートの手段としては、現状ある看護職員のための研修費を活用することが考えられる。組織が必要と思い、サポート体制を整えて働きながら学んでもらうのであるから、終了後は本院に戻ってもらうことが条件である。 横浜創英大学大学院への入学を同じグループの病院にも薦めてみたい。
今後、院卒も受け入れたいと考えており、そのために給与体系を見直している。	現在待遇の優遇はない。 給与や定年について今後検討する予定である。スペシャリストとしての給与テーブルを用意する時期が来ていると感じている。	上記のとおり、本院から出した修了者は本院が受け入れる。
1) 管理者として概念化スキルの発揮 2) 組織横断的に行動できる力 3) 看護の可視化ができる能力 4) 迷った時に道しるべになれる指導力 5) 全体を俯瞰して教育プログラムが立てられる教育力	1) 病院看護部を牽引する、組織の要となる人材 2) スタッフ育成のできる人材を期待している。	1) 教育について調整機能を担ってもらう。 2) 教育指導計画・人材育成計画を立てる人材。
看護師長の管理力育成	1) 病院だけでなく在宅を考え、コーディネートできる人材の育成 2) 認知症を含めた老年看護学の講義・演習 3) コミュニティの中でどういうケアリングや生活ができるか追及し示してくれる人材の育成 4) 看護スタッフに文章力の指導ができる人材の育成 5) 病院外へ出て活躍できる人材の育成	臨床の指導者、看護管理者を育成する教育
看護部長自身も後期課程に通っている。	現在、大学院卒は2名	現在 修士修了者 2名 大卒 80人 認定ナース 6名

総合病院C	総合病院D	専門病院〈精神科〉	専門病院〈精神科〉
副院長 薦めたい。 基本給等の支援制度を利用させて通学させたい。	看護部長 研究を行って欲しいので薦めたい。 通いやすい大学院を薦める。	看護部長 基本的に職員の数に余裕があり本人の希望があれば出せる可能性はある。 夜間であれば薦めやすい。	看護部長 学習は薦めていきたいと考えており、院長は院で学ぶことの大事さについて理解をしているが、当院の看護職のレベルを勘案すると院への進学はなかなか難しいと思われる。
基本給もしくは手当てで優遇することを考えたい。	待遇面はこれから検討するが、院卒の採用は積極的に行いたい。	コスト的には少しプラスになるが、積極的に採りたい。	院卒を採用した場合の優遇等については今後考える予定である。
マネージメント力、リーダーシップ力の伸長	研究力	担当する患者、及び病院に対し、学修した内容を反映させ、貢献することを期待したい。できる人はポストが与えられる。	精神の専門性を求められる資格など。
夜間や土日開講	看護管理者の育成	本学卒業生が希望すれば出したい。	距離的にやや離れており、通学が困難ではないかと思われる。